



高木瀬小学校 学校だより

第7号
R7.9.2発行
文責:橋口

さあ、2学期が始まりました！

41日間の長い夏休みが終わり、子ども達のにぎやかな声と明るい笑顔が学校に戻ってきました。8月29日(金)は、朝から強い日差しが照り付け、残暑厳しい中での登校でしたが、ほとんどの子どもが「校長先生、おはようございます」と元気な挨拶で登校することができました。ほっとしました。

私の顔を見るなり、「おばあちゃんの家にはじめて自分だけで泊まったよ」「(社会体育で)初めて試合に出て点数を入れたよ」などと自分から夏休みのことを報告する子どももたくさんいて、きっと充実した夏休みだったのだろうなあと思ったり嬉しく思ったところです。

しかし、言葉や行動に出すか出さないかは別にして、中には、登校を渋っている子どももいるだろうと思っています。私たち教職員は、安心・安全の学校づくり、学ぶことが楽しいと実感できる授業づくりを目指し、この夏休みも研修を行いました。不安な気持ちに寄り添いながら、徐々に学校生活を楽しめる心もちになれるよう努めます。おうちの方との連携は必須です。今学期も、学校とご家庭が両輪となって、お子さんを伴走支援できるよう進めましょう。お力をお貸しください。よろしくお願いいたします。

夏休みカレー会 大盛況(地域の皆さん、ありがとうございます)

8月6日(水)にまちづくり協議会子ども見守り部会の皆さんが中心となって、「夏休み カレー会」を開催していただきました。これは、毎月行っていた「居場所」の代わりとして、「遊びとカレーを楽しむ会」として開催されたものです。当日は、**73名**の子ども達が高木瀬公民館に集まり、楽しい時間を過ごしました。

私はちょうど昼食時間に様子を見に行きました。食生活改善推進協議会の皆さんの手作りカレーを「おいしい、おいしい」ともりもり食べている子ども達。それを「たくさん、食べんしゃいよ」「ほらほら、噛んで食べよう。ようっと噛まんば」等と目を細めて寄り添ってくださっているたくさんの地域の方々。とっても温かい空間でした。

地域の皆さんは「先生、食事時間けん、今は席についてるけれど、子ども達のエネルギーはすごか」「もう午前中でへとへとよ」とおっしゃっていましたが、その顔は笑顔でした。

実は、この日をとても楽しみにしていた子どももいて、夏休み前から「先生、お母さんに『早く書いて』って頼んで申し込んだよ」と教えてくれた子どももいました。夏休みの楽しい思い出になったことと思います。

前日から準備や仕込みをしてくださったとお聞きしました。皆さん、子ども達が大変お世話になりました。



ご案内



本校の校内研究で、職員に助言をくださっている神野さん。毎回、大きな刺激を受けています。

佐賀市 PTA 研究大会

日時：令和7年9月13日(土) 12:30~

場所：東与賀文化ホール

内容：神野元基(じんの げんき)氏の講演

本校 PTA 活動の発表

※神野氏は佐賀市教育アドバイザーです。本校の教育は佐賀市教育ビジョンに基づいています。

学校目標「全児童に未来社会をしなやかに生き抜く力を育む」

今年も開催「きもだめしスタンプラリー」

夏祭りの開催に合わせて、本校北校舎を会場とした「きもだめしスタンプラリー」がPTA 父親委員会を中心として開催をされました。当日は、3時のオープンから、受付終了時刻まで入場者の列が途切れることなく、大盛況でした(5時間で577人)。泣き出してPTAのお父さんにおんぶをしてもらって回る子どももいれば、1階から3階まで完全制覇の子どももいて、それぞれに楽しんでいたようです。

父親委員の皆様、本校ならではの楽しい催しをありがとうございました。



「本の森」で順番を待つ子ども達。わくわくと緊張が昆じています。



朝からワイワイとにぎやかに準備中。お父さんたちもとても楽しそうでした。

先生たちも準備やお化け役で大活躍しました。年々、本気度とクオリティが上がっています。



出店の中でも人気が高い「PTAの焼き鳥」。お父さん達がいねいに炭火で焼いてくださっていました。



実行委員の6年生とPTAの方々による「高木瀬小〇×クイズ」で祭りを盛り上げました



夏祭りのやぐらステージでは、6年生の実行委員(希望者)による「高木瀬小〇×クイズ」がありました。クイズは「楽勝」の声上がるほど簡単なものから、全員が間違ってしまう難しいものまでが混じっていて、大いに盛り上がりました。子どもだけではなく、大人からも歓声があがっていました。

はきはきとした発声で、ゆっくりとクイズを読み上げてくれた実行委員。子どもならではの元気と明るさの溢れる活躍でした。

弘済会からの「希望図書贈呈」～毎年、ありがとうございます～

児童、生徒のみならず、はじめまして、私たちは公益財団法人日本教育公務員弘済会と申します。このたび、公益事業の一環として、貴校に図書を贈呈させていただきます。執筆者の考え方や生き方を学び、これからの人生の糧としていただければと思います。あなたの未来が明るく豊かになることを心から祈念します。
佐賀支部長
田中 啓善

毎年、学校から弘済会の募集に応募をして、2万円分の図書を寄贈していただいています。図書館司書の小山田先生に子ども達に人気の本や読んでほしい本を選書していただいています。

ぴかぴかの本が図書室にならび、子ども達が手に取る日が楽しみです。弘済会様、ありがとうございます。



タブレットを自宅で使っていますか？(4年生以上)

タブレットを文房具のひとつとして自由に使いこなせることが、これからの時代には当たり前となると思います。使いこなすためには、慣れがとても重要です。自宅で気なることを検索したり、キーボードレッスンをしたり、AIドリルで予習復習をしたり、タブレットに触れる時間を意識的にもってほしいと思っています。親子でキーボードレッスンの勝負等もできますよ。「充電のためだけの持ち帰り」は、とてももったいないです。